



半世紀前に流通していたビール缶たち

## ゴミ拾いを新たなアクティビティに「水中ゴミ拾い」とは？

文・写真

東 真七水

text &amp; photo by Manami Azuma

初めまして。水中ごみ拾い専門店 Dr・blue の東真七水です。私は沖縄本島でダイビングインストラクターのお仕事をしているのですが、ただのダイビングショップではありません。「スキューバダイビング」と「ゴミ拾い」を組み合わせた、「水中ごみ拾い」専門のダイビングショップです。

ダイビングといえば一般的に美しい珊瑚礁や熱帯魚を見て楽しむことが醍醐味ですが、Dr・blue ではそれは二の次。海底に沈んだゴミを探し求めて、日々海の中へ潜っています。このゴミ拾いダイビング参加代が私の主な収益となっています。

「わざわざお金を出してゴミを拾う人なんているのだろうか？」と感じる方もいるのではないのでしょうか。「水中ごみ拾い」はただの慈善活動ではありません。独自性と多くの魅力を持つ、全く新しいマリンアクティビティだと思っています。

その一つが、「予想外なゴミとの出会い」。

基本的には一般ゴミがほとんど。ペットボトルや空き缶

といった飲料系、ビニール袋やお菓子の袋といった使い捨てプラスチック類、もしくは根掛かりしたルアーや釣り糸が多く見られるのですが、時折「なぜ海の中にこんなものが？」と目を疑うものも沈んでいます。例えばショップの呼び出しベル。また、空き缶は空き缶でも、なんと半世紀前に流通していたビール缶が見つかることも。

何が出てくるかわからない。水中ではいつもドキドキワクワク！「お宝探し」感覚で楽しくゴミを回収できるというのが魅力の一つ



撮影場所：沖縄県嘉手納町（撮影 2022 年 11 月）

そもそも沖縄の海と聞くと、誰もが美しい海を頭浮かべるでしょう。もちろん沖縄が世界屈指の海を持っていることは間違いありませんが、一方で驚くほど汚れた海もある、これもまた事実なのです。

一人のダイバーとして海の SOS を伝えること、そしてゴミ拾いの魅力を発信することで「みんながゴミ拾いできる社会」を目指し、これから時に楽しく、時に真面目に連載させていただきます。

### Profile

奈良県生まれ。大学を卒業後化粧品会社に就職。沖縄の綺麗な海を守りたいと 2020 年に沖縄に移住し、2022 年、水中ごみ拾い専門店 Dr.blue を立ち上げる。  
【Dr.blue ウェブサイト】  
www.dr-blue.okinawa

